

地域医療部



地域医療部長
秋山 祐一



地域医療連携室長
瀬田 公一

□ 地域医療支援病院の見直し作業が進んでいます。

厚生労働省の各種審議会を見ていると75歳以上の老人人口の増加を見据えて医療法の改正を目指していることがわかります。「医療機関の役割分担を行い、はじめから大病院ではなくまずはかかりつけ医を受診する体制に変えていく必要がある」と社会保障国民会議においても議論されています。すでに急性期の病院は経営面でDPCIにより長期入院ができないようにシステム化されています。急性期病院はⅡ群とⅢ群に分けられ 超急性期病院という概念も議論の対象になっています。他にも紹介率、逆紹介率を厳格に定義するという方向性も示されてきていて、地域医療支援病院の見直しが進んでいます。地域医療連携室では結果的に地域の連携の絆が強まるように、紹介率と逆紹介率向上をめざして、病院内の各部署と協力して、あらゆる努力を続けます。

□ 地域医療連携室

わたしたちは京都医療センターを

- ・良質な医療で地域に貢献できる病院
- ・優秀な医療スタッフが集まる病院
- ・熱意ある研修医や若手コメディカルにとって魅力的な病院
- ・スタッフが新しい技術や考え方を学べる病院
- ・チーム医療と医療安全が確立している病院
- ・地域から信頼される病院

として成長していくことを目指して、地域医療連携室として頑張っています。

地域医療連携室が出来ることとして、

- ・断らない医療、円滑な予約システムの構築
- ・円滑な退院支援の強化
- ・地域の医療機関との顔の見える関係の構築
- ・高度な急性期医療を担うという認識の職員全体での共有
- ・高度な急性期医療を担っている病院であることへの患者さんとその家族の理解を得ていこうと考えています。

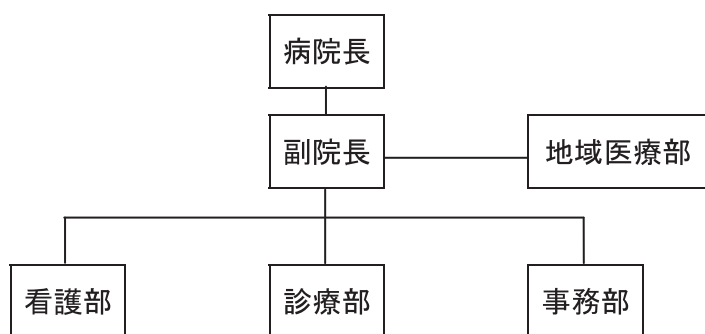
□ スタッフ

経営企画室長・地域医療連携室長補佐 岡崎 義治
地域医療連携係長・病床管理師長 塚本 直子

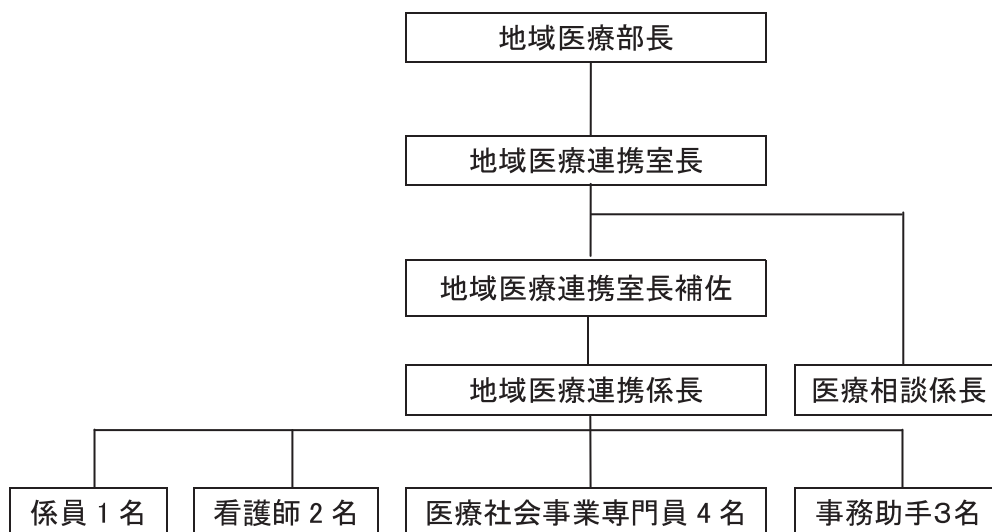
主任医療社会事業専門員	宅間 親恵
看護師	杉本 明美
看護師	井上 綾乃
医療社会事業専門員	長田 沙友梨
医療社会事業専門員	弘中 孝佳
医療社会事業専門員	吉岡 孝師
地域医療連携係	金本 晃一
事務	森野 裕子
事務	植田 奈緒子
予約担当	川村 一恵
予約担当	井坂 杏映

1. 沿革と体制

- 2002年 地域医療連携室設置
- 2007年 地域がん診療拠点病院の指定
- 2008年 地域医療支援病院の承認



構成メンバー



2. 地域医療連携室の日常活動

〈前方連携〉

- 診察・検査事前予約
- 救急紹介受診の受付と手配
- 開放型病床のデータ管理
- 紹介患者の返信確認と入退院の情報提供

〈後方連携〉

- 退院支援(転院・在宅)
- 後方支援機関との連携の強化
- 後方支援機関への紹介患者

〈相談〉

- 療養上の相談や受診についての相談
- 経済的問題の解決
- 各種制度(介護保険・障害者医療など)の相談

〈広報〉

- 外来担当表等の発送
- 広報誌『京都医療センターだより』の発送
- 市民公開講座の開催
- 各医療機関への訪問

3. 業務実績(2012年実績)

地域医療連携室経由予約件数 診療予約7,147件 検査予約1,217件
1日平均予約件数34.1件

相談件数7,475件 転院支援実績518件

転院支援実績在院日数53.5日 地域医療診療計画管理料適用患者数 80件

救急受診受付668件 救急受診受入後入院件数323件

セカンドオピニオン相談件数105件 セカンドオピニオン実績件数17件

紹介率69.1% 逆紹介率61.2% 開放型病床登録医数169件

地域医療連携委員会 1回/月

地域支援病院運営委員会 四半期1回

地域公開講座計4回開催

院内発表

平成24年7月6日(金)介護保険の基礎知識:60名参加 宅間親恵

平成25年3月2日(土)成果発表会

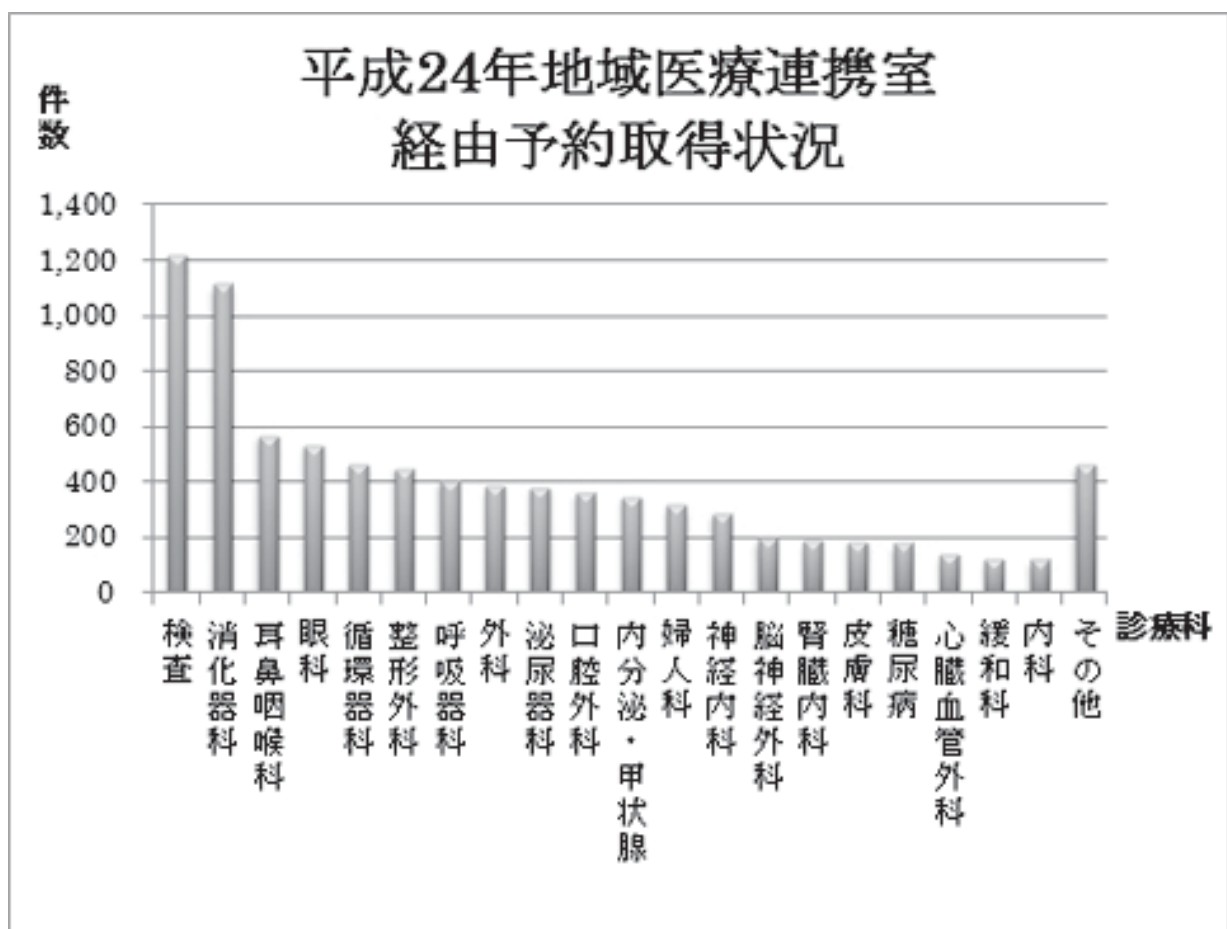
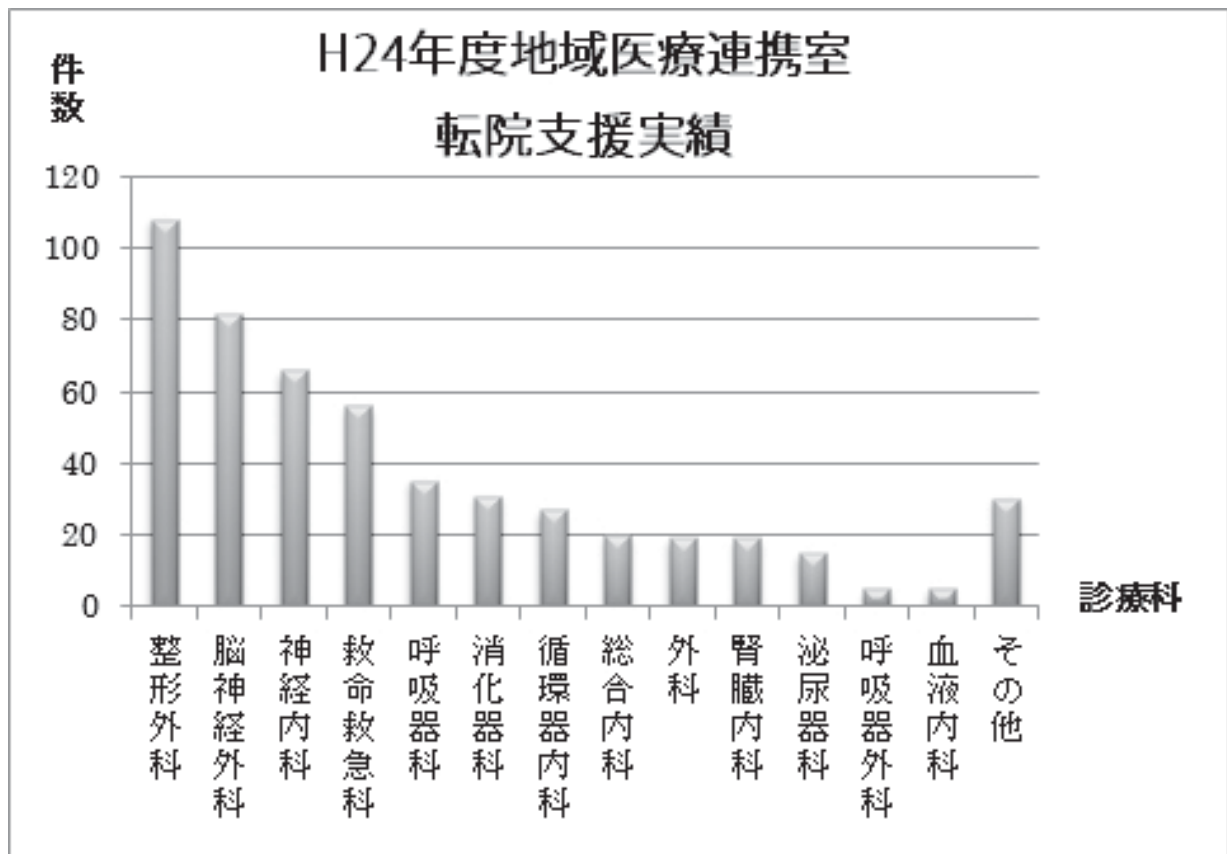
「MSW関わった退院支援」 宅間親恵 口述

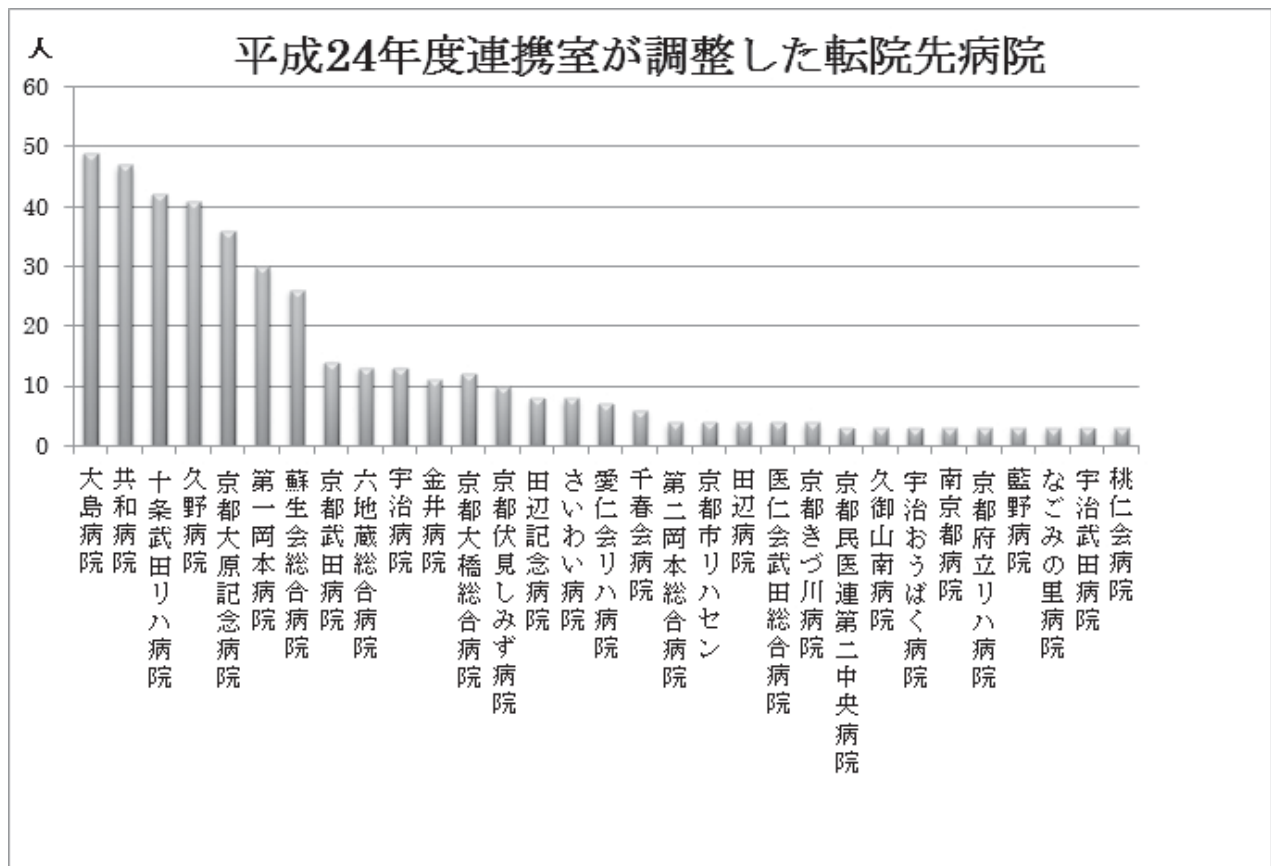
「転院調整の改善に向けた取り組み」 佐々木幸樹 ポスター

「京都医療センターのさらなる活性化を目指して～高度急性期病院のあり方と展望～」 瀬田公一
ランチョンセミナー

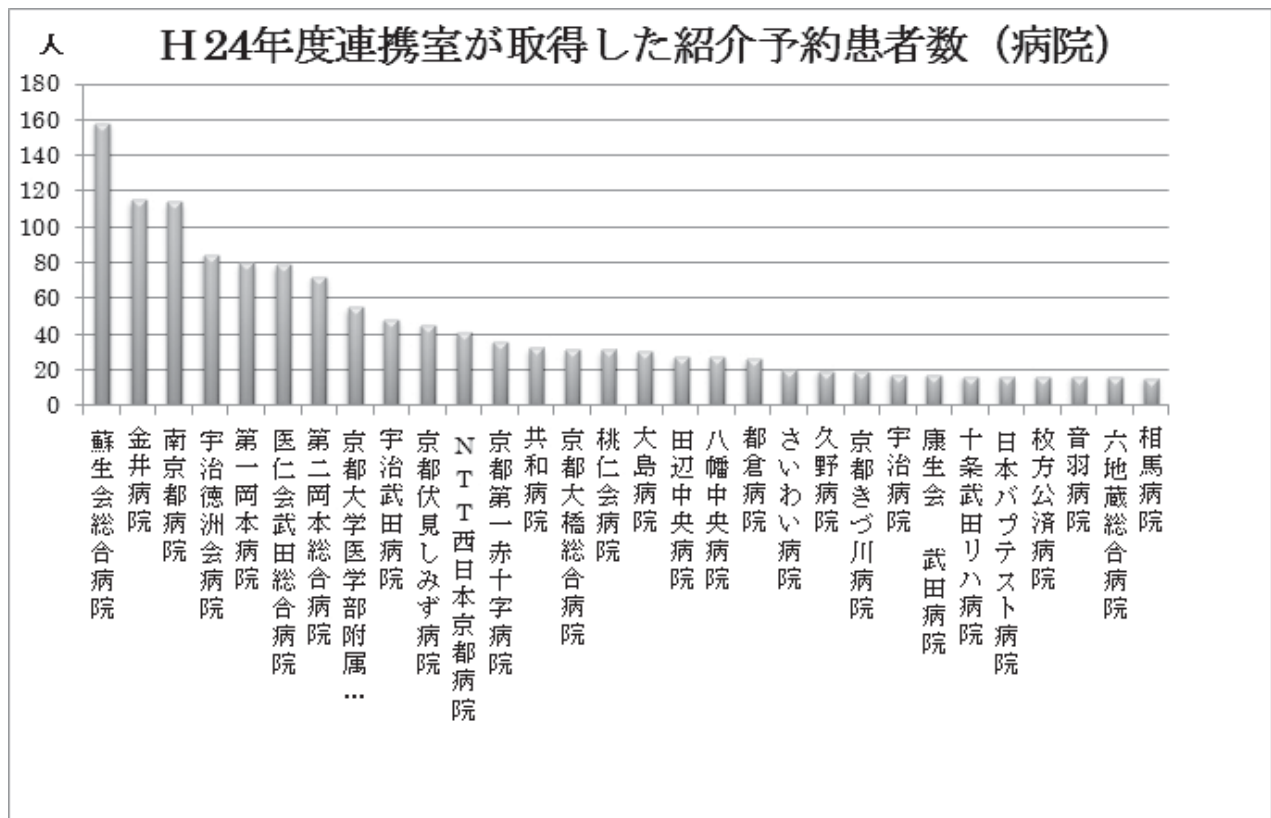
その他

11月14日(水)第8回訪問看護師交流会:80名参加





転院件数3件以上の病院を掲示



紹介件数上位30の病院を掲示